

道博協ニュース

発行所 北海道博物館協会
事務局 〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2
北海道開拓記念館内
電話/011-898-0456・FAX/011-898-2657

第40回北海道博物館大会 7月18・19日、倶知安町で開催

第40回北海道博物館大会および平成13年度北海道博物館協会総会を倶知安町、倶知安町教育委員会、日本博物館協会北海道支部との共催で開催いたします。

後志地方での開催は昭和58年の第22回岩内大会以来となります。倶知安町には平成11年11月3日に小川原脩記念美術館が開館して活動中で、新たな郷土資料館についても建設準備中です。

今回の開催も地元の倶知安町・倶知安町教育委員会の全面的なご協力を得て準備を進めてきました。大会・総会の内容は以下のとおりです。

会期 平成13年7月18日(水)～19日(木)

会場 倶知安町公民館(倶知安町南3条東4丁目)

TEL 0136-22-4151

大会テーマ「総合的な学習の時間と博物館の役割」

大会日程 7月18日(水) - 1日目 -

①受付 9:30～10:00

②開会式・総会・特別報告・表彰式
10:00～12:00

③昼食 12:00～13:00

④特別講演 13:00～14:30

演題：パワーアップ！博物館－総合的な学習の時間に応える博物館の役割－

講師：宇都宮大学 助教授 廣瀬 隆人 氏

⑤シンポジウム 14:30～16:50

テーマ：「総合的な学習の時間に応える博物館の役割 博物館/学校/地域－それぞれの視点から－」

司会：小川原脩記念美術館館長 矢吹 俊男 氏

報告1「博物館の視点から」、
黒松内町ブナセンター長 高橋 興世 氏

報告2「地域の視点から」、蘭越町教育委員会
生涯学習課長 河田 茂 氏

報告3「学校と総合的な学習－全国の事例から－」
宇都宮大学助教授 廣瀬 隆人 氏

⑥閉会式 16:50～17:00

⑦懇親会 18:00～20:00

7月19日(木) - 2日目 -

①視察見学受付 8:30～9:00

②町内外施設見学 9:00～12:15

有島記念館(ニセコ町)、ふきだし公園(京極町)、小川原脩記念美術館(倶知安町)

平成14年から「完全学校週5日制」が始まり、「総合的な学習の時間」も同年から本格実施されます。すでに各学校では「総合的な学習の時間」の試行が行われ、一方博物館では体験学習や郷土学習を含めた出前授業等で対応されていることと思います。その過程で、学校側の期待と博物館側の対応のすれ違いや、考え方の違いなどが始まっていることが、様々な機会に聞こえてきます。

今大会でも日本博物館協会専務理事・五十嵐耕一氏による特別報告で、博物館・園をとりまく全国的な社会情勢等の報告をいただきます。

特別講演では、「総合的な学習の時間」積極的に関わっている廣瀬隆人氏より博物館として、どこまで、どのように対応すべきなのかをお話しいたできます。また、シンポジウムでは、試行として行われた「総合的な学習」の時間に博物館としてどのように対応してきたか、そしてどのような問題が生じているのか、各地域の社会教育担当者は博物館に何を期待しているのか、学校では「総合的な学習の時間」にどのような対応がなされているかを全国的な事例等から提言いただき、「総合的な学習の時間」を展開する学校側に博物館としてどのように協力できるかの提言等をいただけるものと思います。

第40回北海道博物館大会開催地 倶知安町

うっそうとした原始の森に開拓の槌音が響きわたった。明治25年5月、ちょうど110年前のことでした。

わずか数十名の入植者によって倶知安の土台づくりがなされ、現在ではおよそ1万6千人のひとたちが暮らす町に成長しました。

〈スキーの町くっちゃん〉

明治45年4月15日午後9時35分、口ひげをたくわえた大男が倶知安駅に降り立った。男の名はテオドル・エドラー・フォン・レルヒ。雪まだ深い羊蹄山へのスキー登山を敢行するため訪れたのでした。翌日、レルヒ中佐一行は旭が丘公園に隣接する黒山の山でそのスキー術を披露しました。山の前の道路は黒山の人、あたかもお祭りのような賑いだったそうです。明治45年4月17日早朝、レルヒ中佐一行は羊蹄山を目指し駅前を出発、9時間5分におよぶ悪戦苦闘の行程の末、スキー登山に成功しました。スキーの町くっちゃんを物語るエピソードです。

〈風景の中の美術館〉

平成11年11月、新しい風景が誕生しました。風景の中の美術館、小川原脩記念美術館です。羊蹄山に面した小高い丘に建つ美術館、あまりにも大きな存在の羊蹄山とは真正面から対峙するような自己主張の強いものではなく、風景としての建物を意識しました。それは小川原脩さんがいう「素朴な美術館ができればいい、絵は描きたい人が描くよりしようがない、そんな気持ちを子どもたちにかきたてるような、敷居の高くない場所になってほしい。」ことの現れです。小川原脩記念美術館は、小川原脩のすべてがここにある美術館を目指しています。

〈倶知安四季散歩〉

自然のリズムが感じられるのも、くっちゃんの魅力です。春から夏へと移り変わるリズムも私たちを存分に楽しませてくれます。大地と遊び大地に学ぶ、心をゆったり豊かにしてくれる、くっちゃんの自然は大きなふとところでわたしたちを受け止めてくれます。

山開きの頃。抜けるような青空と鮮やかな緑の

中でトレッキングやスポーツを満喫する季節でもあります。ゴルフ、パークゴルフ、サイクリング、テニスなどで汗を流すのもまた爽やかです。

秋、豊穣の季節。くっちゃんの名産「じゃがいも」の収穫。「くっちゃんの大地の恵・じゃがいも」はじゃがバター、あげいも、さらにうどんやラーメンに姿を変えて街のレストランで味わうことができます。

やがて、白い白い季節が静かに山々を街を覆います。少しずつ降る雪が増え、朝までしんと降り積もる。いやになるほど降る雪もまたくっちゃんのかげがえのない宝物です。パウダースノーを楽しむスキーヤーにスノーボーダー。氷点下20度を下回ると大気の中にきらきらと水蒸気の結晶が煌きます。くっちゃんの冬は厳しいけれどもその中でまた来る春を待つのです。冬がなければあの美しい春はやって来ないのだから。

皆様がこのくっちゃんにお越しになる頃は、緑が一段と深さを増していることでしょう。

〈「しりべしミュージアムロード」の旅〉

平成7年、山と海を堪能できる贅沢なまち岩内町「木田金次郎美術館」「荒井記念美術館」、名作『カインの末裔』の舞台ニセコ町「有島記念館」、文化の神づくりを進める一真狩村「国松登ギャラリー」が連携し、後志の近隣町村をネットワーク化し、より魅力のある文化施設、文化エリアを形成しようと「しりべしミュージアムロード」が発足しました。現在では、小川原脩のすべてがある一倶知安町「小川原脩記念美術館」、のどかな田園風景の中に一共和町「西村計雄記念美術館」、自然に囲まれた一喜茂別町「中山峠森の美術館」が加わり7つの美術館、記念館をむすぶ、絵画、文学、歴史に触れるひとあじ違ったミュージアムロードに変身しました。それぞれ、個性ある美術館・記念館をお楽しみください。

(小川原脩記念美術館 主事 石川美奈子)



「よみがえる北の中・近世—掘り出されたアイヌ文化—」展開幕

6月2日、初夏の観光シーズンを迎えた市立函館博物館で、「よみがえる北の中・近世—掘り出されたアイヌ文化—」展が開幕しました。本展は、同館と財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構が主催するもので、近年の発掘調査の結果出土したアイヌ文化期の遺物を展示し、18世紀以前のアイヌ文化の様相に迫ろうとしたものです。ステージ1「夷島の中世」ではサクシュコトニ川遺跡や札幌市K39遺跡出土の木製品にアイヌ文化の兆しを、ステージ2「混住する和人・アイヌの世界」では、道南12館や上ノ国町の遺跡にアイヌ文化の足跡を、ステージ3「掘り出されたアイヌの生活」では美々8遺跡や沙流川流域遺跡群の出土品に活発なアイヌ民族の活動と生活を、それぞれ総点数420点にのぼる出展資料で展開しています。勝山館廃絶直後の遺跡から出土し、慶長年間のものや年代が特定されるイクバスイヤ弓、沙流川流域のアイヌ墓から出土した副葬品、活発な海漁を思わせるメカジキの線刻画が残された櫓や、住居用柱、食器

など大量の出土木製品も出展されております。

なお、本展は函館での開催後、苫小牧市博物館、釧路市立博物館で巡回展示されます。

(各会場の会期・行事は以下のとおり)

市立函館博物館 平成13年6月2日～7月1日

苫小牧市博物館 平成13年7月14日～8月19日

釧路市立博物館 平成13年9月1日～10月7日

記念講演会(6月16日)

会場 函館市芸術ホール 講師 榎森 進氏

普及啓発講演会(7月14日)

会場 アイビープラザ 基調講演 菊池徹夫氏
(財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構 河野哲也)



「門別町の植物」刊行

門別町図書館郷土資料館では、町内に自生する植物についての報告書を、日高教育局の後援により2月に発行しました。

この報告書は、郷土資料館と町内の植物研究者である高橋諠氏との5年間の合同調査の成果であり、高橋氏には植物の写真撮影や分類から執筆に至るまで、そのほとんどをお願いしました。

本文には、門別町に自生する絶滅危惧種(サクラソウ・カムイコザクラなど)や、(クロユリ・ヤマシャクヤクなど)希少種を含む144枚のカラー写真と、900種に及ぶ植物と植生などの情報を記載しております。

この報告書は無料で配布しておりますので、寄贈を希望される博物館はFAX(01456-2-3711)にてお申し込み下さい。

なお、残部(約20部程度)が少ないため、申し込み順とさせていただきます。

(門別町図書館郷土資料館 川内谷 修)



蒸気トラクタが走る！ ～上富良野町・「土の館」～

上川管内上富良野町にある「土の館」はユニークな世界のプラウと土の博物館で、日本唯一のトラクタの博物館でもあります。北海道で初めてトラクタを導入したのは奈井江町の北條二氏で、1951年（昭和26）のことでした。今年で50年を経過したことになり、土の館ではこれを記念して7月1日～8月31日に「世界のクラシックトラクタ博」を開催することになりました。

その主役が1902年にカナダで製造された蒸気トラクタで、1920年ごろまで使用されたとのこと。空知管内由仁町の三谷牧場が1996年に購入、今年4月に土の館に寄贈されました。このほど富良野SL保存会の手によって整備されて、約80年ぶりに力強い走りが復活しました。このトラクタは国内唯一で世界でも数台しか残っていない貴重な資料で、現在のトラクタの元祖にあたります。全長約6m、重量約9tの黒い巨体が甲高い汽笛を上げ、大量の黒煙を吐きながら時速5キロほどでゆっくり走る勇姿は実に迫力があります。

「世界クラシックトラクタ博」では80台のトラクタを展示するほか、「農業変遷伝承展」・「農業未来絵画展」・「ミニトラクタレース（期間中の日曜日）」などが開催されます。また、7月14日・15日には「愛馬愛車フォーラム」・「トラクタ今昔実演会」・「クラシックトラクタ搭乗体験」・「世界のトラクタと農業クイズ大会」など楽しい行事も企画されています。中でも蒸気トラクタが先導する世界のクラシックトラクタのパレードは必見です。

（富良野市郷土館 館長 杉浦重信）



黒煙を噴き上げて走る蒸気トラクタ

平成12年度北海道美術館 学芸員研究協議会報告

平成12年度の総会・研究協議会は平成13年度の3月8日、9日の両日、北海道立近代美術館で開かれた。今回の研究協議会は第9回目。21館53名の会員のうち41名が参加した。

今日、多くの美術館・博物館が来館者を対象にアンケート調査を実施している。職員の対応、展示、施設などについて、改善を求めるものもあれば、感動や不平を率直に述べているものもある。アンケートなどによって来館者の反応や意見を知ることは、館運営を反省し、改善するための基本的な活動だといえる。美術館・博物館のあり方が問い直され、機能や役割が見直されている中で、効果的な評価の方法を考えていくことは大切なことであろう。「美術館の評価」を研究協議のテーマとしたのは、一つにはこのような認識からであった。

第1日目は「美術館の評価」と題して、北海道大学文学部助教授・佐々木亨氏が最近の博物館や自治体の評価、評価の方法などについて具体的な

例を上げて話された。佐々木氏が関係した北海道開拓記念館のアイヌ展示に関する来館者アンケート、東京都が導入している政策指標、さらに利用者への影響、効果の度合い、貢献度を評価するアウトカム指標について詳しく知ることができた。

2日目は「作品借用時の学芸的諸問題について」がテーマ。苫名直子・道立近代美術館学芸員の報告の後、協議が行なわれた。作品の借用から返却までの間に手続き、作品の点検と保存、輸送、借用料のことなど難しい問題にぶつかることが多い。様々な事例が紹介され、共通の問題として議論されたことは有意義であった。

（北海道美術館学芸員研究協議会幹事 浅川 泰）



網走管内博物館連絡協議会 機関紙『とびだせ網博協』の発行

網走管内博物館連絡協議会が設立されたのは昭和62年で、全道的にも古いほうになります。その当時の網走管内には、博物館・郷土資料館（室）・記念館などの施設が26市町村内に32施設と、道内他管内に比べ多い地域でした。

それらの施設の連携を深めるため協議会が設立された訳ですが、当時の事業内容は年1回の研修会と情報交換が主たる事業として運営されておりました。

その後、事業内容の見直しが図られ、平成7年度から事業充実のための2本柱として、年2回の研修会と広報活動の新規取り組みとして、機関紙『とびだせ網博協』の発行をすることになりました。

現在年1回、6～8ページだてで、第6号を平成13年3月に発行しております。タイトルの『と

びだせ網博協』の由来は、「この北海道のオホーツクの地より、全道、さらに全国に向けて情報を発信できれば」という思いからつけられております。

内容も「事業報告」として年2回の研修報告、「新博物館の紹介」、「管内の発掘調査の報告」などともに、『網走管内博物館の新しい波』と題して、「学校と博物館の自然教育授業の連携」、「博物館資料のデータベース化」、「博物館フォーラム」、「博物館とのコンピュータ・ネットワーク」、「ホームページの開設」、「博物館ライブラリーの刊行」、「管内各博物館のホームページ開設状況」など、時代を先取りした、管内博物館の最新の話題を取り上げて載せております。

今後も21世紀を見据えた管内博物館活動の充実・向上のため、タイトルに負けないような紙面の充実を図り、全国に情報を発信していきたいと思っております。

(網走管内博物館連絡協議会 広報担当幹事
紋別市立郷土博物館 業務係長 佐藤和利)

道東3管内博物館施設等 連絡協議会報告

釧路・根室・十勝支庁管内の博物館施設等で構成されている道東3管内博物館施設等連絡協議会(24施設が加盟)は、去る5月18日に釧路市立博物館を会場に平成13年度総会を開催し、今年度の事業計画の協議、役員改選等が行なわれました。

事業は博物館交流推進会議の開催のほか、会の新しい事業として「道東博物館マップ(仮称)」作成に取り組むための準備会を発足させることなどが承認されました。

●博物館交流推進会議

- 日時 平成13年10月18日(木)～19日(金)
会場 別海町図書館(予定)
内容 ○基調講演：北海道大学の佐々木亨氏を講師に迎え、博物館の事業評価について講演をいただく予定です。
○事例発表と意見交換：博物館施設と地域との関わりなどについて、実践例の報告と意見交換を行ないます。
○施設見学：別海町郷土資料館、同加賀家文書館などを見学します。

なお、詳細は7月中に決定いたします。

●連絡協議会の新役員

任期満了に伴う役員改選が行なわれ、新体制が次のように決まりました。

【会長】

帯広百年記念館(館長 伊藤 功)

【副会長】

釧路市立博物館、根室市博物館開設準備室

【監事】

神田日勝記念館、本別町歴史民俗資料館

【幹事】

浦幌町立博物館、弟子屈町屈斜路コタンアイヌ民俗資料館、別海町郷土資料館

なお、事務局は帯広百年記念館が担当します。

十勝管内博物館学芸職員等協議会

新年度総会は5月24日に帯広百年記念館を会場に開催し、事業計画では研修会を10月下旬に陸別町で開催することとなりました。また、役員改選では会長に後藤秀彦氏(浦幌町立博物館)、副会長に澤村寛氏(足寄動物化石博物館)・菅訓章氏(神田日勝記念館)が就任しました。

なお、総会終了後、佐々木亨氏(北海道大学)を講師にお招きし「博物館事業評価の現状と課題」と題した講演会を開催しました。

(帯広百年記念館 北沢 実)

館 園 紹 介**勇武津資料館**

春とは名ばかりの強い北風が吹き荒ぶ2001（平成13）年4月1日、苫小牧発祥の地勇払に、1998（平成10）年のとまこまい市制施行50年の記念事業として着手し、2000（平成12）年の八王子千人同心移住200年記念として完成した勇武津資料館が開館しました。

市街地から東へ約12kmに位置する勇払地区は、松前藩成立後、シコツ六場所の一つ、勇払場所として東蝦夷地の政治、経済、文化、交通の要衝として殷賑を極めました。そのため市指定文化財史跡「勇払会所の跡」をはじめ「蝦夷地開拓移住隊士の墓」「勇払恵比須神社奉納品21点」「勇武津不動及び奉納品7点」などのほか、道指定史跡「開拓使三角測量勇払基点」など多くの文化財が保存されています。

勇武津資料館は、勇払の文化財を総合的に整備するに当り、市民はもとより道内外の人々に苫小牧の歴史、文化に触れ親しみながら学ぶことができる歴史教育、郷土学習の拠点としての役目も荷って建設されました。

外観は江戸時代末期に存在した勇払会所をモデルに鉄骨造りの平屋建てで、内外装には木の香も芳しいカラマツ等の木材が使用されています。面積は、敷地が勇払ふるさと公園の中央部を占めて、2226、建設 393.87、延床 325.03㎡です。主な部屋としては、エントランス、資料展示室、多目的研修室、事務室、収納庫等ですが、資料展示室には、会所の内部をイメージし、かまどと囲炉裏を設け、その周囲に甕、播鉢等の容器類や椀や盃をのせたお膳を配し、当時の生活復元を行っています。また多目的研修室には、講座、講演会の会場としての机、椅子を用意していますが、通常は中央に平ケース2台を配置し、コンプラ瓶等の弁天貝塚出土品、タマサイ、ニンカニ等の民族資料、嘉永7年（1854）製作の「蝦夷閩境輿地全図」などを展示しています。西側壁面には縦型の固定ケースを設け、八王子千人同心、勇武津会所、三角測量勇払基点、北前船関係の古絵図、写真パネル等の資料も展示公開しています。建物の特色の一つとして玄関左手に、幅1.8m、長さ9mの濡れ縁が設けられ、地元芸能保存会による千人太鼓の発表や将来的には、姉妹都市八王子の車人形の実演ができるようになっています。

次に事業ですが、設置目的には“勇払地域に関する文化財等の保存及び活用を図り、本市における文化の向上に資するため”とあり、(1)資料の収集、保管及び展示、(2)資料の調査、(3)資料に関する講演会、研究会等の開催、(4)市民の学習及び文化活動の場の提供が明記されています。本年度は予算措置がなされていないため、館職員〔嘱託館長1、嘱託事務員2（退職校長、教諭）〕による事業展開となり、下半期から、ふるさと歴史講座3回、探訪会2回、昔の生活体験教室10回を計画し、すでに子供の日には、新聞紙でのかぶとづくりとチャンバラ大会を開催し、好評を博しました。

今後は、資料収集と調査研究が中心となりますが、積極的に教育普及活動も実施したいと思っています。

終りに勇武津資料館の名称の由来について述べておきたいと思います。勇払の地名は、アイヌ語のiput〔イ・プツ=それへの・入り口〕が語源です。“それ”とはシコツ〔現在の千歳市〕を指し、当時、千歳川にそ上するサケがシコツ場所最大の生産物で、そのサケを北前船で本州に輸出する湊として勇払が繁栄しました。古文書や古絵図では、当初（江戸時代初期）はカタカナでイブツ、ユウブツ等で表記されていましたが、中期頃より様々な当字が使われ、30種程が確認されています。その中で一番多いものが勇武津であり、幕史、高橋次太夫、八王子千人同心、葛西祐介等の建立した不動尊にも勇武津の字が使用されていることから、この名称に決定したものです。

所在地 〒059-1372 苫小牧市字勇払132-32
TEL・FAX 0144-56-0201

休館日 月曜日、国民の祝日の翌日、年末年始

開館時間 10:00～17:00

入館料 無料(多目的研修室の利用は有料)

見学所要時間 約30分

交通案内 JR日高本線「勇払駅」下車10分
苫小牧市営バス 勇払線、勇払公住前下車
徒歩5分

駐車場 開拓史跡公園駐車場をご利用下さい。

(勇武津資料館 館長 佐藤一夫)



館・園の主な展覧会と普及事業

(2001年7月～2001年10月)

石狩

- 江別市セラミックアートセンター(TEL:011-385-1004)
6.16～7.15「かがやく土ー風ー」、7.21～9.16「ドイツ陶芸の100年」、10.6～11.4「北のガラスアート2001」
- 芸術の森美術館(TEL:011-591-0090)
6.3～7.15「砂澤ビッキ展」、7.21～9.2「ポラロイド・コレクション アメリカ 写真の世紀」、9.8～10.28「東京富士美術所蔵品展 西洋絵画名品展」
- サッポロビール博物館(TEL:011-731-4368)
8.1～8.15「親子工場見学(七夕)」
- 北海道開拓記念館(TEL:011-898-0456)
6.15～8.15 特別展「ヤマが歩んだ近代」、7.4～8.30 体験学習「アイヌ民族の暮らし」、7.8 講習会「石器をつくる」、7.28 講演会「石炭・炭鉱社会・ヤマの人々」、7.29「歴史発見!ウォークラリー」、8.12 一日学芸員、9.2 講演会「戦後におけるサハリン・クリル諸島史研究について」、9.7～11.4 特別展「知られざる中世の北海道ーチャシと館の謎にせまる」、9.16 歴史講座「開拓使はなぜ毒矢罠を禁止したのか」、10.13 シンポジウム「チャシと館の時代」
- 北海道開拓の村(TEL:011-898-2692)
7.28 むらの講演会「民話の伝承課程ー岡山県と北海道」、8.12 江差追分演劇会、8.25 むらの講演会「釧路に入植した鳥取県人の足跡」、8.26 昔の遊び選手権大会、10.12 むらの活動写真
- 北海道立文学館(TEL:011-511-7655)
8.7～8.10 ファミリー文学館、9.1～10.8 映画ポスターにみる北海道の大学、9.15 映画鑑賞のつどい、文芸講演会、文芸セミナー
- 北海道立近代美術館(TEL:011-644-6881)
7.14～8.26 朝鮮王朝の美、9.14～10.21 平山郁夫展
- 北海道立三岸好太郎美術館(TEL:011-644-8901)
5.25～7.8 個人美術館散歩 7人の洋画家

渡島

- 市立函館博物館(TEL:0138-23-5480)
8.4～9.23 特別展「幕末の箱館と幻の陶磁器ー箱館焼の世界ー」、8.12～8.26 体験学習「土器を作ってみよう」、9.8 博物館資料に触れてみようー大砲の弾は重いかな?ー
- 北海道立函館美術館(TEL:0138-56-6311)
7.29～9.9 イタリア静物画展、9.19～11.11 朝鮮王朝時代美
- 江差町郷土資料館(TEL:01395-2-1047)
8.3～8.4 冒険王 海、9.8 冒険王 虫、9.29 北前船セミナー、10.6、10.13 土器づくり

後志

- 北一ヴェネツィア美術館(TEL:0134-33-1717)
7.18～1.2 煌 モザイクガラスの華 ヴェネツィア・ミッレフィオーリ展

- 小樽市青少年科学技術館(TEL:0134-22-0031)
7.25～8.19 特別展「光と色」
- 小樽市博物館(TEL:0134-33-2439)
7.27～9.9 特別展「井尻正二ー20世紀の生んだ科学者」、10.8 キノコ展 小樽市近郊のキノコ展示・同定会
- おたる水族館(TEL:0134-33-1400)
7.14～8.10 夏の特別企画「ネズミイルカと遊ぼう」
- 木田金次郎美術館(TEL:0135-63-2221)
7.1～10.28 特集展示「木田金次郎と全道展」
- 余市水産博物館(TEL:0135-22-6187)
9.25～10.28 特集展「鱒 ニシン」

空知

- 砂川市郷土資料館(TEL:0125-52-2339)
7.22～8.19 相撲の歴史パネル展、10.1～11.3 ちらしの今昔
- 滝川美術自然史館(TEL:0125-23-0502)
8.1～8.19 北の日本画滝川展、8.24～9.23 碓井廣重 植物画の世界
- 三笠市立博物館(TEL:01267-6-7545)
7月下旬～9月下旬 特別展「三笠の20世紀展」

十勝

- 旭川市博物館(TEL:0166-69-2004)
7.15～8.26 北の民ーカラフトで暮らしたアイヌの人々
- 旭川市青少年科学館(TEL:0166-22-4171)
7.17～9.9 「第4回サイエンス展示・実験ショー アイデアコンテスト受賞作品」展
- 旭川兵村記念館(TEL:0166-36-2323)
5.1～10.20 企画展「屏風展」
- 上富良野町郷土館(TEL:0167-45-5037)
7月下旬～8月上旬 郷土スタンプラリー、8月中旬 郷土見学ツアー
- 士別市立博物館(TEL:01652-2-3320)
7.1～7.22 特別企画展「開館20年のあゆみ展」、7.29～8.26 特別企画展「はてなワールド展」、9.23～10.7 特別企画展「現代アートの世界展」
- 世界のプラウと土の博物館 土の館(TEL:0167-45-3151)
7.1～8.31 展示実演「世界のクラシックトラクタ博」
- 中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館(TEL:0166-52-0033)
7.7～7.29 企画展「平面コレクション展」、8.1～8.19 企画展「旭川の彫刻家」、8.25～10.28 中原悌二郎賞受賞作品展「加藤昭男展」
- 富良野市郷土館(TEL:0167-22-3864)
9.12～9.21 特別展「戦後の暮らしと流行歌」、9.9 講演会「キノコから見た富良野の森」
- 北海道立旭川美術館(TEL:0166-25-2577)
7.7～8.26 特別展「ティンガティンガ展」、9.1～10.14 特別展「追憶・旭川の作家たち」

留萌

- 金田心象書道美術展(TEL:01632-5-2720)
9.29～10.8 第11回心象書道展
- 北海道海鳥センター(TEL:01646-9-2080)
7.20～8.19 写真展「ウミガラス」

網走

●置戸町郷土資料館(TEL:0157-52-3075)

10～11月 郷土資料特別展示

●美幌博物館(TEL:01527-2-2160)

7.29～9.30 特別展「ふるさとの作家たち」

■胆振

●仙台藩白老元陣屋資料館(TEL:0144-85-2666)

8.1～8.31 展示会「仙台地方のこけし」

●伊達教育委員会(TEL:0142-21-5213)

7.20 北の縄文人展、有珠モシリ遺跡展、アイヌ資料展、
7.26 縄文シティサミット記念講演、7.27～7.28 人類学シンポジウム

●室蘭市青少年科学館(TEL:0143-22-1053)

7月～8月 夏休み科学クラブ、9月「宇宙の日」記念
作文・絵画コンテスト展示会、10月 盆栽展、科学技術振
興作品展胆振地方展

●室蘭市民俗資料館(TEL:0143-59-4922)

9.1～9.30 昔の民具展

■日高

●静内町郷土館(TEL:01464-2-0394)

8月～9月 特別展「昔の台所」

●新冠町郷土資料館(TEL:01464-7-2694)

8月 ふるさと新冠めぐり、新冠町郷土資料館特別展、10
月 昔のおもちゃづくり

■十勝

●帯広百年記念館(TEL:0155-24-5352)

8.9～9.9 特別企画展「緑の血管ー水辺のレッドア
ーたちー」

●神田日勝記念館(TEL:01566-6-1555)

8.10～8.19 美術展覧会「人を描く」、8.26 馬耕忌、
10月上旬 馬の絵作品展

●北海道立帯広美術館(TEL:0155-22-6963)

6.23～9.5 十勝の新時代Ⅳ「多賀新展」、7.13～9.
5「中国美術の精華」、9.14～10.24 2001年シネマ・オ
デッセイ、9.14～12.12 近代ポスターの父「ジュール・
シュレ」

●本別町歴史民俗資料館(TEL:01562-2-2142)

7.15～10.15 特別展「本別町100年のあゆみ展」、7月
体験学習「木と友だちになろう」

●足寄動物化石博物館(TEL:01562-5-9100)

6月から9月 あしよ化石教室、あしよ自然教室

■釧路

●釧路市青少年科学館(TEL:0154-41-6225)

1.4～8.12 特別展「ロボット展」

●北海道立釧路芸術館(TEL:0154-23-2381)

6.23～7.22 展覧会「日本画にみる四季の美」、7.29
～9.24「アートごちそう帖」、10.6～12.4 展覧会
「毛網殻展」

■根室

●根室市博物館開設準備室(TEL:01532-5-3661)

2.30～7.12、7.16～7.29 特別展「根室千島の歴史
と自然を21世紀の子供たちへ」、7月 コウモリ観察会、
7月～8月 土器づくり、9月 自然観察会

事務局日誌(平成13年4月～平成13年6月)

- 4月1日 団体会員市立小樽文学館、個人会員矢野牧夫氏、賛助会員(株)NTTデータ北海道支社 退会
- 4月5日 事務局業務に対する協力依頼文提出(北海道開拓記念館宛)
- 4月10日 北海道海鳥センター 団体会員入会
- 4月24日 佐藤一夫氏 個人会員入会
- 4月27日 平成13年度事務局業務分担決定
- 5月15日～6月2日 臨時職員雇用
- 5月18日 片山雅彦氏 個人会員入会/
- 5月25日 第40回大会後援等依頼
- 5月25日 平成13年度協会表彰者決定通知
- 5月25日 平成14年度道博協大会依頼文送付
- 5月29日 第40回大会要項会員送付
- 6月30日 道博協ニュース第72号発行

役員異動

新年度の人事異動等により、次のとおり役員の変更がありました。

副会長 毛利正彦氏

(北海道立近代美術館副館長 河村 猛将氏 後任)

吉田国吉氏

(苫小牧市博物館長 佐藤 一夫氏 後任)

佐藤 功氏

(帯広百年記念館長 村田 博氏 後任)

理事 飯田富洋氏

(江差町郷土資料館長 津村 孝氏 後任)

南川和廣氏

(滝川市美術自然史館長 外山 旭氏 後任)

山恒雄氏

(札幌市青少年科学館長 矢野 義和氏 後任)

木村直樹氏

(アイヌ民族博物館長 山丸 和幸氏 後任)

平成13年度事務局体制

事務局長 丹治 輝一

事務局次長 山田 悟郎、笹木 義友

事務局員 小林 幸雄、林 昇太郎、山田 伸一

会費納入のお願い

本協会の円滑な運営のため、平成13年度の会費納入をお願いします。

団体会員15,000円、個人会員3,000円、賛助会員20,000円です。

お知らせ

(株)ハドソンより、同社の貨幣研究所が所有している貨幣および展示ケースを、展示していただける博物館・園に寄託したい旨の申し出が事務局にありました。詳細については(株)ハドソン 管理本部総務部長 大内 清司氏にお問い合わせください。(TEL011-841-9073)